鬼外福助噺

全

へ九百五十九 一

12 一

へ13
1984
10

10

へ13
1984
10

序

京都帝国大学

長崎町二丁目
八野屋勘八

宇邑堂の年忘ハ會合の諸君子落
咄ハ頃のうけゝゝとそゝぐして庄さゝぬ御代
と恢び候の松風さゝゝゝ出侍鄙ゝゝ自
然ゝゝゝも前分の鬼の面ゝゝ洗濯せし
世ゝゝも東ゝゝゝ文様拂ハ嵐の業ゝゝ引出

しるす反古もあるべし取あつめ
畑の作物の稔りふ叶福助吐と表紙
に書付山接合と余慶の仕りふ序文
事出来り

文化乙丑春　十返舎一九誌

大きく

大きく天ざんもよりろくねば今根ろ
せうもたいぎふるう猿古祥天ろくむこ成
とうたやくあんきよぶ為ろくひと仲ケ間の福
福寿へさのくけまびさんそくれくこみ幸ひ
ろんむこぐ成るぶ参る稲の実れいれいぶ
大きく　そ稲い耳ろうじやぶとこの者ぶや　ろく　実
さ風もたろくこうひさに学さであらくぶ叶

福分としてはごろ世上でりてそやして銭
人ハ福福をさづかるくはつちの仲ヶ間の
新年ときはもそんづうくん福神でござ
候ゑ〳〵きさかやの物のそひ時ふとちが
つてちとおごり者とかんへてさくどんとやち
ちんの姉〳〵をつくりもかさまてとめうへ
にたゝかと若くきさつてちろいはん[ハテ]変ハ
まあ利にあらいもとやさんちく相徒がつて

しらひる[ハテ]それさへきさ夜の新ふいれがるんふ
も知ふきづらひるい男じやがふとんのうへよを
ろくいるのがあ世利にでござる[ハテ]ちらしや
うあたちわこ徒やにたゝそうれのつくだ
ろう晴ても今年もまこ豊作で兼がつろてや
ちいろそつさ西ぶ作わがもあうまを
そのけつさるふんと一つたつくも茶の十
徒のあこんれた[ハテ]ちんるとこ

第彩弁画

不化でござるゝ

其二　祝言

邑二語

[illegible]の小福めい福福寿の仲人ぶく〳〵そ尾ふく
祝云もきくれば大くらふかうくびいろ
くの宝和ゆ子の小梗延命代袋くくきやう
ものくびゝ福みゆづうあひければ福かも袋
吉祥天もたきふふくろびいろかくしの家
寅うて一ちをぐ〳〵れば吉りゝぐんなへお前

三

さんいせいのゆ〳〵いくろやいろのゆ忘ひれがろを
おく〳〵さんふ其ますでくさんろまくくしのすよ
おゆづくのふづちや袋もおりちあされくでゝ
うゝどまを福分するかどおれもそふ其すくけし
このくも一ちやくく又ふくまづ袋をかつぎ
小づちかりちふくくく

四方へおすへさんのいあいてすけあてあのかたさへの
らさいうまやぬとしいふこを奥でおらてきき
つけてられむこどのやむこあいたびそとよう
そろくとゆつてやさい

炭方作

・本梅日

「たくたこ十日ふのさまひりるへまゲん甲ど
しも豊年ふ月ゆりおさそちすひこ
四月へふたくひもまこうくしられう正月とまり

ぞくくどやく絹年の祝ふとびに福かやえと
ゲあづくの甲ゑどしもちどくりあくゆりお
きめてちすひくふきき角のようよへむこと
ぶさいらりくくいうきまして貝ゑこ表とむへ
ま千又来年ふ冥運のうで丑どぞう月
ようふふたんのうへで・うんと宇のも稼のくとふう
運ふ原月ぞちどやまけのようにうんをまりう
ようへそて病ふふく蔭ふ祝ふこうぞう

大黒
ヤアヤアコレハ三つ福ハ
ずくハナラヌメ

が出来ると思ひ一ぱい
もうと二人して酒をくらい
やくそくのとうり悪魔外道
とくれつち成日げとうしんすると福の文と
やうくそのうちのさびぶくんつかわるは
さうだふすりれば大こくもきろね金いろ
福分ばかりけるあく 福の文
りまあね鬼も叶福分でござうと云だた

うて二人とも笑つて引きけめひ福の内ふいつよい
鬼ハ外人出おれくとつれ出しられば鬼も
まけおつてふへひとうと知ひまをよ

買

鬼武作

叶やひとうむとて福分ふりの大こんん
ぶ大あるまのうさんの魚何出いろてから
しくきれる所があるとれあそびはまて
のちよう出来がよくて大り、なれば

みゆ　あつさ　こぶ　なし　たべ　ま　ふうれし
かく　家　が　ぬ　さ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
いろ　ろ　ろ　ん　く　あ　ろ　て　り　へ　ね　や　ア　ろ　し
ら　ぞ　ぞ　ま　て　お　く　ん　ま　ん　し　ち　ね　べ　ど　ぞ　ふ　す
ろ　ん　が　ち　ろ　お　い　で　る　ん　す　ち　あ　と　ろ　ん　ね
ま　つ　て　い　る　の　ち　ろ　ん　ざ　ん　す　ち　へ　ろ　し　い　ね　ら　ね
ど　や　ア　お　ち　せ　ん　ち　ん　ち　ど　ち　ち　ん　ぶ　ち　ん
ち　ち　ど　め　ん　ち　ん　ー　ト　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ど　ち　ど

と　病　ける　福　ひ　き　る　ん　つ　ぶ　し　こ　ち　お　へ　ん　ち
ち　ち　こ　ん　ー　い　ち　く　の　ち　ふ　病　ち　ける　の　ち　ち　と
り　ち　ち　ち　れ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ち　ち　病　ち　ち　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
て　ち　ち　ち　ち　れ　で　病　ち　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

色事

鬼武作

浅草の中見せよみる今ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　

茶やの福かとい[illegible]
人目をのんで[illegible]
福さんへおまゐり上方[illegible]
江戸者のこゝろ[illegible]
ざかりどふぞ女房[illegible]
西へつれていこう[illegible]
せうちくがたゝ[illegible]
なるほど同じ[illegible]

ゆゝしき[illegible]
女房なつまんせ[illegible]

叶福妙　邑二作

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

もあるまれちいさうがたちめたるさひ西ふ彩ふ
ちふ貧の福六もあるまぶ身ぶくて妙くうくしの
のようふさ 夕ぐも フウ ゆるふ ひどそんかう 福分かくさ
んいそ 八 あれうたれいわるくなんえのようふさ

けんくを

邑 彦作

とゆうび
うを紅やの見世の保美世の福分と浅草の福
分とすくんでいる人ぐういさとして
ゆくくと望けぐ江戸の福分いわるう身がぐふ其わ

大きひぐ保美世の福分あるまぶ身ぐんでいるがさい
きがいくしひそうたんしてゆれたれが祭て保美
やれの福分ときうしきいどよいてもこちらう
が年家ちえじやさらでいろぐりがんくうを
さんぶ名らくわあてじやうふとをとわげるが江
戸の福分ぐくとあつくくりイヤ式上方のく
分やらうあおきやアぐしてあんのうるさを表ぐ
のさくけぐのしへさうをひしやが庶ぶく

よびうけとるふにうれへ出あさくさのぶつ
きゐの出生のうつくしうるかちをうんとふ
ゞ花けた江戸の五一外金一外の五うつくま
きてくぎ金ゝとでれあのるぶさいえ上ハあさゐ
おどりうきゐ下ハがうきん蝦ふさん松室ハ私のう
んこゝぶうんきゐとやどんをやさやちうめん
きをぶうんふたうおぐらひらうぶどふゐがら
くさ氏拾ふれちうふハエうるくをぶくるとう

くどいて雨おちのへてうくんふくこむぞよくかもい
きたる平糸といくぶふくきやれの福みもわき
きてぐまつているゆくをぶふいるうりのゐ拾
ども実無くく見き拾あのやうぶいうれく
ぐまつていてわすむまんぞくへいうれ内美
のふく氏門江戸京ハあうきまぐちどやこちを
へうんでゐる

叶福分又世寿き

滴利作

かのふ福みがどふを加ながうるうをだてこさる
ゆへうんぞしかうぞんどうぞうておもうと
そくうつくそんとそして今ぶ名をとゝ
ふうふく茶屋とゝ出してさうだけどと
ふやうく長時屋とゝ出ておそれ
そんとしてうつりあくやさくうつ
ても間や拂の時ふするこ間屋えまけ
てうこしてやうぷりふうこ間やうこ屋

まだ名いろくゝゝ世ぶ出してそんとする
家でもぶふもりふくうくうどもりふ
うんぞやそくうつてそんのつくせうぞ
ハあるまいうこ番ぶとうんでさうぞ
ぶうしば[変化]ひぶ屋とゝ出しておもりしかと
くかうゝゝうこれませてうくが[ちがう]十二月そのうこ
なうでげうらしう

新宅

きんさくのあんさよまう「ヤハ人てらさんさ
いきる内ぶるちくせうめ。高う人にひあん
だくぶ。ちゆふん場のようぶぜいんだ
ハ三人大きふたうとそ「コレ格子ぶ。ちう人も
ちんさく（来て。ゆふんだのようぶぶ。ふさく
おくぶ。ヤゆうんなるめくヤきめび「格」たそ
ちヤやい。ふ内てそふらうぶ。ちのぶ「ちせく

のんでいぶりもぶ。ヤこしくそめのそおちさ
ぢをちうしさうてそうんる

○あんないい

一僕はれるるお侍ある赤のげんちんゆて
ものりみくとうんたらうあいさうぶ多見
ゆへ。とんぶあうもひぐくだうの。大あと
あげて。ものりみとうんがざうとうとうれ

ぶんるきもとつぶ〜。こゆとあ〜あつけやうて
ててとそそ〜へ出コリヤ こゆちのれハ
やぐきるもんぐ。どこのまゑ 他のものぐ
どゑめといふぐあるものちと。大きふ去
ウめべこゆとそもぐ。そいぐんぐすし〜ぐ
そそんぐんぐそなぜどうれ〜ぬう〜と
あるぐいきぜいちてものりとちり

ちゑるぐめもあいさろのきてぐぐうま
せめうぐおんきうおきのどくふなきして

○あん

ヨヤきそふそへてめへとして来きうぐ所ぐ
ちるうふきや桶ふハあるし。むるみちるう
るんぐ見きんぐもるゆハうゆくるゆ坊ぐう坊め
しんく形宝入きてそんるふふるとうかく入

「ヨツトこうはあやまりぞんるゝるとらく」

○同の玉

眼の玉入智所とかへぞん出てあるとかんち
のおとこ。見うけてぞうとさうあるこの
ゝまと。ゴざうゝうこゝの同とれ入智ぐざう
ませゝらんぐあるゞゝゝ人ゝるそうぐざの男
ゝ出「まるうちいとまゝ。教玉もいろく

ござうゝまと。まゝふやうまれば。代拾ゝ
かうまと。びいゞろでゝとゝゝゝゝゝゝゝ
で出来ゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いとませゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝひゝのゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
コレハのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぞうと出れば。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぐポコシ〳〵

○ぐぐ汁

皮はまを合はんと鍋とあ〳〵こがぐぐ。

きてこがるくしに盛れば極ぐれぐさ紀ぐ。

入せやこらへたぐこれひこうぐそこらぐあ

中ぐひこうの男いつよへなんと拵のこまを極て

いろこんぐ一ぐこれりぐこうこうてゆこうこのぐ

○細工ぎまん

コレ[illegible]細工ぎまんとをくらはる
はなしてくれと。柳がりよおちてハテナおちる
きがいるぶんドレはうちをとりてもらえ
ふ柳をはうてきまへ。モウよいコレうるさ
ものをあげさしやるる

○人れ

ある人ゆんさうとりんそのうつ雨ぶりゃむ
まんへきのごくるぐつ。あらうのゝ少時ゝ死。死
るを。桐が見へまきてきいたくるもとつぶし。
そうゝ内へうつ。うちゆ門ふるそのもとつきち
せて。そんぐくるを送えゝ。あるる日まさうう
ものぐち
おきとあゝ内あて。さけさうるとぐゝ。ナテ
ゆれるゝ。ゆの北ゝ時ゆ死ゝきそうう。ルグ

へゝるこひぐゝ。ゆとさけとそある内。ゆ前ナグ
チンくゝ居ゝ。皮まぐる。そゆへのうう
おるゝ。ゆうゝ。あゝあんでさゝるゝ。ちゝぐ
のゝこんぐゝ。さゝ内ゝあさへつまる内ゝ。
サア。ゆゝふぐゝ。ふぐゆは。ゝさゝれゝ。
ゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ内ゝ。ゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝ時ぐゝ。ゝれゝれゝる内。まと

こたいぶつ（古物）モウ七ツうこれらこまつぬし
きぐようけおち

○香陣

ナテ（扨）京の所（町）へきれうど。犬のうそぐひうえ
ぬ（抜）ぐんぐわうち。ゆふまぢかゆたく
ぢう。そこ夜ぢれども書ゐる。ゆうくと辻
ゐうぢ。ゆうけて。ナテ（扨）きめて。ぢをわけんと

きれば中でエヘ（エヘ）くとらゆ（コレハ）かるけうい
ととと出。ゆんまち（こまり）ぐわうのいろ（色）へぐ
てうとてらよ。人せを出てくいろぐ。さう
そくぶ〇あう。上所（町）の十三人でどぐる。ゆえ（こむ）
ん
ぶ。ぐう。香陣とちくおりひさう（ひさう）ぜく
ぐ（代）あやきいとでどぐ。ぢ人ぜる
ちんぐうてるとくまきて。ぢうこんてきる

いすゝこ[十三]ゝとゝ[ゝ]ゝ[ゝ]ゝ[ゝ]

あんなきのきいてゆくらいてよろこんでゐる
うち武士久きけどこゝらうこゝまでぞる
ゆべうあれば。あるだらぶ見るものどもに
いひあつてきゝぬ。ゆくらいてゐる内きゝ異い
ぶんこゝ久きけ。母めゝどこゝらうこゝ矢あうう
おあんだいぶうるいとあつちうう医者めへ
いひて来うまこゝ来れいよくえがはつて

あるを中てゐる内。又こゝてゐるまるこゝ久きけ
見へんだ。あぶるくゝへ見べぶんるへ母めへけ。こゝ
どこゝいひこゝさこゝだんうう。ぶいておきぶれ
中さこゝ出よゝまぶぶう。お寺へきこせふま
いうまこゝ

○見ひ森

あさや
新森だ。のりそよいらいまるいまこゝ

してたゝこゝゆく。狂(あやち)たつぎよりひとつ
なんとしてもやくをきて人べ(むまと)ゆ用事へ
さゝてとれまゝこゝろ。まいろ。そこぞんじまして
あぢ
イヤ〳〵ろくへなるぬ。どんぶんよう大分用ゞあるとれちとつけ
られむをこやむさんまりとやくおきて
さゝこゝろさぶけ。こゝまゝわへ。でゝとゝなを
ゞゝこゝへあぢゝ又ぬ。ゝこゝろ。ちゞしして

大きゝよおそゝられろゝ狂又二ゝゝゝうけよう
コリヤ〳〵ゞゞゝこゝろ。よびおこせべ(むまと)ヤレ〳〵用事へ
まゝゝゝゝ。ゝゝいなゞゝゝゝせゝまゝこゝろ。
ゆわ
夏ふゝまゝて。ゝうゞけふ夜ま(くも)ゞもゞ長(しる)
川へゝゝこゝひつたる。れい又大分用(ようこと)よ用ゞ
あゝゝゝれゝゝ。ゝゝ。ちゝゝゝ。ひきゞぼる
ふで。あゝゝよおこゝれまゝこゝゝ人べ(あぢ)ソレ

月てさうおこさぞ〳〵もいさうりがあるぞよ

○犬の見

まや仏ぐどうてゐるまのあがめんてごろうハ弱竿
ぐあれそふぐ〳〵。ぐろくあがるひゆしよ。さ母ハ
ぐろくうあれる。は男ぐんぐろくあの中人おち
れべ。仏ゲ大きる巣犬ぐ居て。そどろぐ〳〵
ゆ〳〵ぎされ。は男ぐんぐろむろの物ぐのよる

のこぶろ。ゆろて。ちの。ゆりくはろまさろなぐろ
あろくと月れべ。あのるろ。物ぐのかもハ
行る所ぐあり。て。鶏ぐ物ぐ来さるゆ。さてハ
ころハ弥宮の所と月へ。ハ物ぐのハ犬の
月ぐるゆ。あり。てゐるうち。下ハ猫ぐとたい
ゆ鶏ぐ行。て月ぐ。ハ又ちざ人のハ。
南犬の月へひろるふいこまる

○ 樽婆

りんよりはごろへ手投げをすると。樽だんまる。
と目をあいて。気とつけてゐるとやがて死ぬ。
ぢぢんよ。こぢ〳〵婆の女なりく　たしのよ
まりくれば。あこそて樽だん。あくかそい
とつけをゆくよ。この女樽のまるいとと。
るむあこぢが川　とる〳〵ぬく。ころか

ぢぢむれい　ぢ　ぢとこいとふやいきて
ねるれぬ。ぢけやいぢぢぢぢうまさとらとふ
ぢぢまるくて下さうまをとふ別一まい。
そうと樽だんの手ふりとせべだん三を
るるとめまそまいとうとうかてはさうとや
れ。アコレそこへ抗ぢあいてあぢなんとう。
そうまちのやうはさいい

○めちつき

せちるでいりゝ脈をつく時分ある医者

さるゑ所出いるし。脈をつくともできぞ。

コレこまをけ。どゝゝゝとものごろ。ころ斗

めちとつゝぬも乎也ぐ呂。どゝぞよい

ちまあ公あるまいろ〳〵よいてぐごろまを。

ちとしく屁さ。ま所ゝろまやうゝ。

あるさゝまいゝ。てきるぎられませ。

そゝゝまをゝてうどりもちとけゝ。ちゝぐ

いさゝまをゝろ。あゝろ西のまゝへい

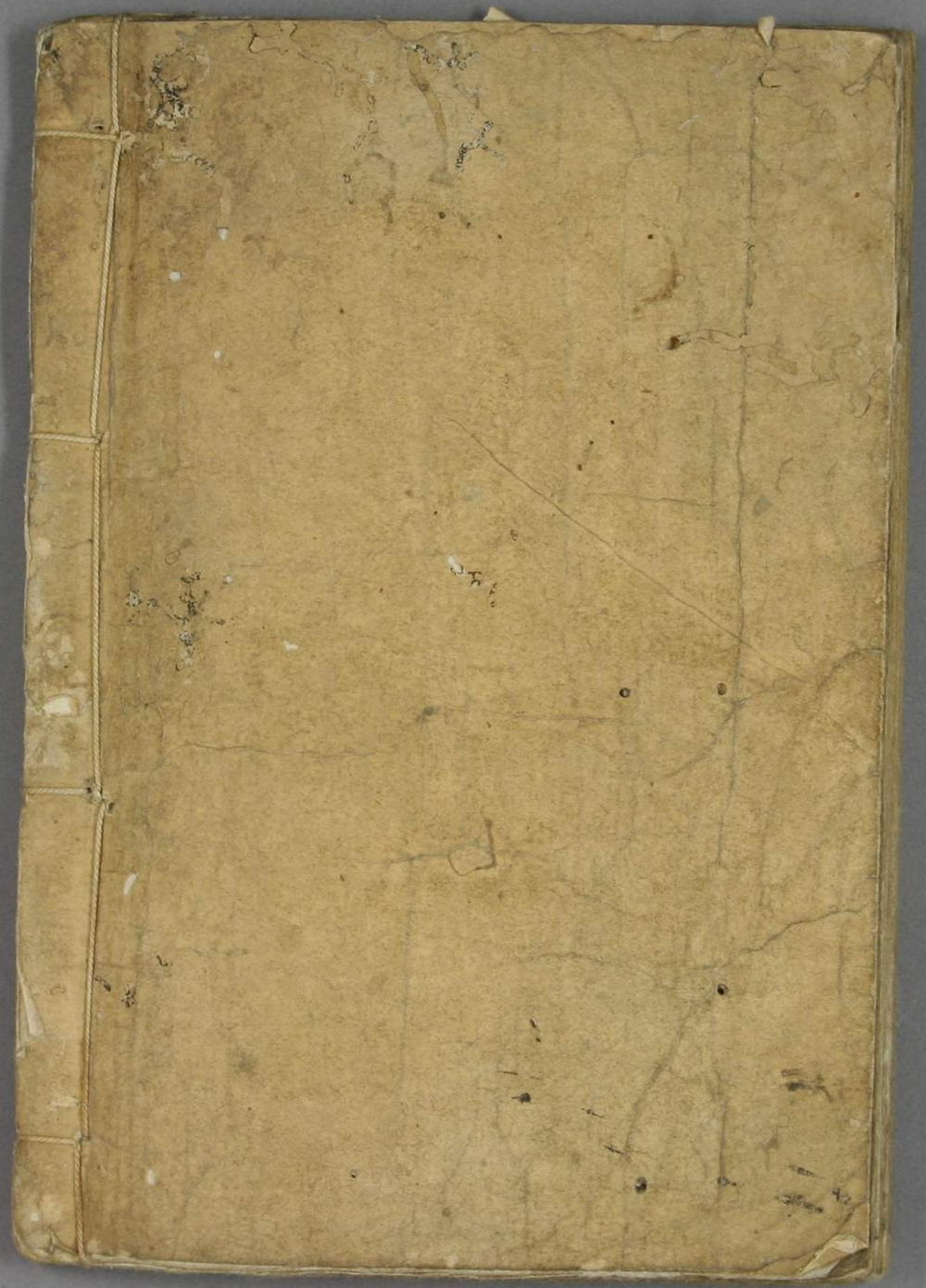
まをゝまをゝいゝ。るゝぐそれよゝゝと。

あゝる紙ゝい内ゝ。こまをけゝ屁をゝ。

ハまりゝゝたゝく。こまをけまで多内ハ。

ゝゝぬゝしぐ。屁ゝぐぶんぐ。ぬゝさゝいろふ

おもひそめいろさへくられぬ[もミ]ぞん
なさ[ま]ぬ[ど]ゝ[ミ]あ[ま]のゆ[う]ふ白[うす]いさ[ま]ゝ
ゆ[ま]るゞもしてやさうせ

(村)栄邑堂　東武通油甲
村田屋治郎兵衛板

二十八ノ